参考資料

休眠預金等活用審議会・WG における
休眠預金等活用制度の評価及び意見・要望についてのヒアリング結果(概要)

令和４年 10 月６日
内閣府休眠預金等活用担当室

休眠預金等活用審議会・ＷＧにおいては、休眠預金等活用法施行 5 年後の見直しに際し、制度の活用状況及び現場からの御意見・御要望を把握するため、令和４年２月 17 日及び３月 22 日に、資金分配団体４団体、実行団体３団体の参加を得て、ヒアリングを実施。

同制度に対する主な意見・要望は以下のとおり。

概要

①伴走支援は、非常に有用との意見が大勢であった。この他、複数年助成、資金使途に縛りがない、人件費にも充当できるなど使い勝手がよいとの意見があった。

②休眠預金を活用することで、周囲からの信頼性が向上し、行政と連携して事業を行うことができたとの意見があった。

③事務負担が大きい、オンラインシステムが使い勝手がよくないとの意見があった。また、事業に関する情報発信・情報共有などが重要であるとの意見があった。

主な要望事項

１．円滑な事業実施のための伴走支援の一層の充実
２．経営への規律の導入や資金還流のための出資・貸付けの実現
３．より大規模な資金ニーズに応えるための１団体当たりの助成額の拡大
４．事務負担の軽減のための書類手続の簡素化・システムの改善
５．資金分配団体に自己資金を申請要件として求めることの是非

※２月 17 日、３月 22 日休眠預金等活用審議会における資金分配団体及び実行団体へのヒアリングに基づき事務局にて作成

未定稿

第 30 回休眠預金等活用審議会における
資金分配団体へのヒアリング（概要）

2022 年 2 月 17 日(木) 10:00～12:00

1．休眠預金等活用制度への評価

資金分配団体Ａ

○ プログラム･オフィサーによる伴走支援は、事務手続の面だけでなく様々なアドバイスをもらえるので非常に有用。

○ コンソーシアムは、ネットワークを補完し合い、負担を軽減できるので、今後に続く協働のスタイルだと思う。

○ 休眠預金の経験が新たな助成金へのチャレンジの助けになったという実行団体がいくつかあった。

資金分配団体Ｂ

○ 実行団体、地元金融機関などを含めて問題解決を話し合う場を設けることで、今後に備える関係性を構築できた。

資金分配団体Ｃ

○ 休眠預金の活用により実行団体の信頼性が向上したことで、行政との連携が非常にスムーズになった。

○ 事業期間が複数年度であり、一定規模の資金を前払いしてもらえる。管理は厳しいが、資金の使途に縛りがない、人件費にも充当できるという意味で、他にはない有用な制度である。

○ 今までの事業と比べるとネットワークという意味でも、数という意味でも多くの助成が可能となった。

○ 資金分配団体同士のネットワークができたというのが、大きなメリットである。休眠によりできたネットワークを切っ掛けに、地域で資金をどう循環させていくかという勉強会の立上げにつながった。

資金分配団体Ｄ

○ 助成金依存というような考え方を、休眠預金制度を活用することで変えられるのではないかと思う。

○ プログラム・オフィサーに対する研修を丁寧にやってもらえる点がよい。

○ 業務改善プロジェクトチームの検討により、契約時前に策定することとなっていた事業評価を契約後でも可としたことで、負担軽減につながった。

○ 地域を限定した公募が可能なので、全国区では上位採択に至らない案件でも、地域的には良い事業というのは必ず存在しており、そういうところに資金が行き渡るのは有り難い。

２．休眠預金等活用制度への要望

資金分配団体Ｂ

○ 伴走支援も始まったばかりであり、知見の共有、見える化が必要。
○ 資金分配団体の地域による格差が生じているので、地方の資金分配団体への支援を行うべき。

資金分配団体Ｃ

○ 事務・経理手続の簡素化を図るべき。現場が元気になるような生きた評価に進化・深化をさせるべき。
○ 資金分配団体同士の学びの可視化、共有、知見化に取り組むべき。
○ ビジネスセクターも含む広いアクターが参画するような仕組みとすべき。
○ より大きなインパクトを創出するという意味で、実行団体当たりの助成金額の増額と、資金分配団体に人材が流入するような資金の使い方を検討すべき。
○ この制度で想定がなされている出資・融資について、検討すべき。出資が可能になれば、株主として経営に参画できる。株主として同じ利益に向き合いながらガバナンスが利かせられ、インパクト創出の一つの大きな力になる。また、休眠預金を永続的な財源と捉えるべきではなく、出資・融資により基金化して資金を回していくことで、制度自体がより安定することになる。
○ 将来的に、財政的・人的自立を果たすため、資金分配団体・実行団体に対する管理的経費、特に人件費への更なる手当を行うべき。

資金分配団体Ｄ

○ 5 年程度の期間で、1 資金分配団体当たり 2.5 億から 5 億程度の助成事業を設けるべき。
○ イノベーションの領域など必要なところに資金を届ける仕組みが必要。
○ プログラム・オフィサーの人件費は、助成額が増えれば人件費も当然増えるという形とすべき。
○ 資金分配団体の自己資金については、要件とするその位置づけを明確にすべき。
○ 年間億単位の助成の場合は、分野に精通した専門性の高い審査委員に審査していただきたい。
○ 規定類については、一律に適用するのではなく、実行団体の規模感によって提出するものを整理するのが現実的。

以上

※ヒアリングに基づき事務局にて作成

未定稿

第 31 回休眠預金等活用審議会
実行団体へのヒアリング（概要）

2022 年 3 月 22 日(火) 17:00～18:04

1．休眠預金等活用制度の評価

実行団体Ａ

○ 休眠預金を活用したことにより、当団体の情報が広まり、支援者や活動を手伝いたいという会員が増加した。また、当団体の信用が向上し、行政ともつながりを作ることができ、連携して事業を実施できた。

○ いつでも資金分配団体の担当者に電話相談ができ、自立に向けた丁寧なアドバイス等が得られた。

実行団体Ｂ

○ 広報や経営コンサルのプロフェッショナルによる伴走支援が得られた。

○ 実行団体同士のつながりを作る交流会が開催され、情報共有が行えた。

○ 行政からの委託事業では給料を出して若者等の就労を支援することができないが、休眠預金を活用することにより、給料を出して地域のために働いてもらうことができるようになり、事業の幅が広がった。

実行団体Ｃ

○ 事業のロジックモデルの作成、事業に必要な人材や相談相手の紹介などの伴走支援が得られ有用だった。

○ 中長期的な視点で、事業自体をどのようにソフトランディングさせていくかなど、経営全体に関してのサポートもしてもらっている。事業に対する鋭い指摘もあり、ブラッシュアップされた形で事業を進めることができるほか、タイムリーに相談できる体制があるため心強い。

○ 休眠預金を活用したことにより、地元の信用金庫や他地域の中間支援組織等が我々の事業に興味を持ってくれたことも良い効果であった。

○ 中間評価を通して、事業の進捗状況の確認のほか、このロジックモデルをこのまま進めるべきか、アップデートしたい部分はあるかなど、考える機会となった。

○ 本制度おいて、インパクト評価が求められる点は有用。それを対外的に示すことにより、地域にインパクトを出し続けていくような仕組みづくりにチャレンジしたい。

２．休眠預金等活用制度への要望

実行団体Ａ

○ 本制度は、我々のような小さい団体でも申請しやすい制度・内容であり、今後も継続してほしい。
○ 無駄使いしないためには、助成金の上限額は今のままで十分。
○ 本制度を知らない団体も多いため、社会福祉協議会やボランティア活動センター等からも情報提供してほしい。
○ 事業報告書等の作成など、今後も事務手続のサポートは継続してほしい。
○ 事業の見える化には、ホームページの活用や、メディアへの掲載などにより多くの人たちに活動を知ってもらうことが必要。
○ ガバナンス・コンプライアンスについて、組織・団体のガバナンス体制や活動内容等の情報をホームページ等により広く一般の方に公開することで不正防止につながると考える。
○ 他団体との連携や活動内容を知ることにより、活動のヒントや活動手法の開発につながるとともに、実装できることも増えると考える。また、学校や若者、行政、情報機関とつながりをつくり、新しい意見やアドバイスをもらうことも重要。

実行団体Ｂ

○ 他の補助金等と比較して、使い勝手については特に問題ない。ただし、我々が採択されたコロナ枠については、公募から事業の実施までの期間が短いため、事務的な負担が大きく、小規模な団体だと対応が困難。休眠預金の活用については、「書類が難しい」などと感じている団体が多い。
○ ガバナンス・コンプライアンスへの意識が低い団体に対しては、事業を進めながら成長できるようにサポートしてほしい。

実行団体Ｃ

○ JANPIA のオンラインシステムは、スケジュールやタスクを関係者同士が共有・確認できるようになっているが、使い勝手があまりよくない。
○ 地元の伴走のスタイルとして、最も当事者意識を持ちコミットする手法は、エクイティによる参画である。

以上

※ヒアリングに基づき事務局にて作成